

地理学専攻

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ A9、地理学(環境・歴史地域コース)演習Ⅱ A9
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生以上
担当者	片平 博文
講義内容・テーマ	テーマ:地域の歴史地理学的研究および第一次産業の変化に関する分析 本演習では、歴史的な地域の空間分析を中心課題として行う。本演習は、3・4回生の2年間を通して卒業論文を作成するゼミの1年目にあたる。2006 年度前期は、卒業論文に向けての比較的大きなテーマを設定し、その分野の文献研究を中心とした個人研究及び共同研究を行う。また後期には、卒業論文のテーマに直接つながりうる、より限定したテーマを設定し、それに沿った文献研究を行う。さらに、卒業論文のフィールド(研究対象地域)もほぼ決定する。
評価方法・基準	評価は、出席・研究発表などの平常点と、研究成果をまとめたレポートによって行う。
テキスト	使用しない。文献については、授業の中で適宜紹介する。
その他	授業時間以外に、適宜、個別指導も行う。

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ B9、地理学(環境・歴史地域コース)演習Ⅱ B9
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生以上
担当者	江口 信清(前期) 高橋 学(後期)
講義内容・テーマ	テーマ:歴史・文化・観光の地理学に関する諸問題。 本演習では、2 年間で完成させる卒業論文の作成に向けて、基本的な事項の習得を目的にする。各人の関心が何にあるか、焦点を当てる努力と平行して、先行研究を批判的に読む。そして、卒業論文のテーマを設定し、夏休み中に事例調査を実施する。各人の研究報告では、諸現象を実証的に分析し、考察することが求められるし、その力をつけていく努力をする。3・4 回生合同で行われる。
評価方法・基準	学年の終わりに各人の研究テーマに沿ったレポートを書いてもらう。出席するだけでなく、報告、そして議論への参加を総合的に評価する。つまり、授業に参加し、自分の研究発表だけでなく、議論に積極的に参加することが求められる。
テキスト	
その他	

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ C9、地理学(都市・産業地域コース)演習Ⅱ C9
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生以上
担当者	藤巻 正己
講義内容・テーマ	テーマ「都市の社会地理学」 都市は物理的・機能的空間であると同時に、年齢・性・職業・所水準・居住形態の差異やエスニシティなど、さまざまな社会経済文化的属性を背景とする異質かつ多様な人々(人間集団)から構成される社会的空間であり、それぞれの人間集団間、あるいは都市を統治する行政当局との間での権力関係が錯綜する政治的空間でもある。 このような観点から、本演習では、多様な人々による「生きられる」/「生きられた」空間としての都市の社会地理を共通のテーマとする。日本のみならず外国の都市を研究対象地域とすることもよしとする。また、どのような人々あるいは人間集団を対象とするのかも、それぞれの関心にゆだねたい。高齢者、エスニックマイノリティ、ジェンダー、身体障害者、若者、ツーリスト、ホームレスの人々など、都市を舞台とする人々の空間的表出形態は実に多様である。 文献研究とともに、フィールドにおける丹念な調査を通じて、それぞれの「切り口」から、「場所」の系譜や論理との間の関係性を意識しながら、都市がどのように「生きられる」/「生きられた」社会的空間なのかをとらえていくこと、これが本演習の共通テーマである。
評価方法・基準	授業中の口頭発表(前・後期いずれも2回)および調査研究レポートにより、総合的に評価する。
テキスト	とくに定めない。各自の研究テーマに関わる推奨文献を適宜、指示する。
その他	授業の無断欠席は認めない。調査研究などのため欠席せざるを得ない場合、必ず事前連絡をすること。

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ D9、地理学(都市・産業地域コース)演習Ⅱ D9
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生以上
担当者	磯田 弦
講義内容・テーマ	テーマ「政策提言を目指した地域経済・社会に関する実証的な研究」 政策提言とは、国や自治体の政策に対するものもあるが、民間企業の経営を改善することや、地場産業や農業などの各産業の振興のためのものも含む。各主体が抱えている問題は、それぞれの地域や時代によって異なり、具体的な政策的指針を決定するには、実証的な研究が必要になる。実際におきている現象を仔細に吟味し、良い点を活用し、悪い点を改善する、という方法で結論を導いて欲しい。例年のテーマには、所得や雇用機会の地域間格差の問題、人口高齢化による地域社会への影響、都市とその周辺の土地利用に関する問題、中心商店街の振興策、先進国における農業経営に関する問題、人口移動が地域社会や土地利用に与える影響、小売店舗出店の意思決定、などが含まれる。これらの問題を、ヒアリング・アンケート調査・統計分析・GISなどを利用して明らかにし、改善策や問題解決への道を探る。

	演習Ⅰは、各人が取り組むべきテーマを設定して、各人で研究をすすめる授業である。検討すべき問題を自分で発見する力と、解決策を自分で発想する力を身につけてほしい。各自の研究を円滑にすすめるために、研究経過を発表する機会が4回設けられており、級友、先輩、教員の意見や感想を参考にしながら、知識と考察力を深めるようにデザインされている。一年間の研究成果は、卒業論文の前哨戦ともいうべき3ゼミレポートとしてまとめる。
評価方法・基準	4回の発表・3ゼミレポート(必須) 25+25 = 50% 出席・議論への参加 50%
テキスト	特になし
その他	メール: isoda@lt.ritsumei.ac.jp 研究室: いこいの広場研究棟2F41号室ですが、空いている時間はもっぱら清心館2FGIS測量室付近にいますので、気軽に質問等してください。

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ E9、地理学(地域情報コース)演習Ⅱ E9
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生以上
担当者	吉越 昭久
講義内容・テーマ	「水・環境・災害に関する諸問題」をテーマとする。 本演習では、上記の内容に関する基礎的な知識・研究方法の修得を目標に、文献の読み方、調査の方法、文章の書き方、発表の方法などについて学ぶ。 獲得目標は、主体的に研究テーマを設定し、主体的に調査を行い、その成果をまとめて発表できるようになることである。 前期は、主として研究テーマの設定、論文の収集方法と読み方を学んだ後に、既往の研究論文を紹介する発表を行う。夏季休暇前に調査のガイダンスを実施して、夏季休暇に各自で調査を行う。後期は主としてその成果の発表を行い、最後にそれをレポートにまとめるようにする。
評価方法・基準	出席、発表の内容、議論への参加など日常点で80%、レポートの内容で20%の割合で評価を行う。
テキスト	使用しない。参考文献は、必要に応じて適宜紹介する。
その他	地理学演習Ⅱと合同で実施する。

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ F9、地理学(地域情報コース)演習Ⅱ F9
---------	------------------------------

開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生以上
担当者	中谷 友樹
講義内容・テーマ	この演習の受講生は、地理情報とこれに関連する諸技術を活用した地理学的研究を、各自の研究テーマに沿って進めることになる。情報技術としての地理情報システム(GIS)や、空間分析の諸技術(各種のモデリング技術)などを活用した立地論や分布論、時空間予測などの研究テーマとともに、地理的情報の意味(場所のイメージのもつ役割)を扱った研究テーマも可能である。想定される典型的なテーマとしては、町家やマンションなどの住宅分布とその更新に関する土地利用変化や人口学的研究、スーパーや消防署などの立地論研究、犯罪や健康水準、所得などの地域格差の研究、人口移動や消費者行動など意思決定の分析、通りや河川など景観イメージの創出や認知地図の解釈および環境評価の研究など。演習は、原則的に受講生による発表とそれに対する受講生全員の討議によって進められるが、状況によっては担当者から問題設定や各自の研究に対するフィードバックを行い、そこから討議をはじめることもありえる。
評価方法・基準	討論への参加度合い、発表の内容、中間的な成果のとりまとめレポートへの取り組みを総合して評価する。
テキスト	指定しない。
その他	

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ G9、地理学(都市・産業地域コース)演習Ⅱ G9
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生以上
担当者	古賀 慎二
講義内容・テーマ	都市地域における諸問題の地理学的考察 本演習は、次年度作成する卒業論文へ向け、各自で取り組むテーマについて、既往の研究成果のレビューや方法論の検討、予想される結果と意義などを熟考しつつ確立する。また、設定したテーマをもとに夏期休暇を利用してフィールド・ワークを実施し、その結果を発表して討議する。必要に応じてフィールド・ワークとインドア・ワークを繰り返し、成果のフィードバックを適宜行う。 都市地域(都市近郊地域)で惹起している諸現象は多様であるため、敢えてテーマを絞ることはしない。人口・商業・農業・業務・居住・娯楽・ジェンダー・治安などの諸問題を地理学的アプローチから解釈・説明・理解する方法論を学ぶ。 自らの問題意識を具体的な実証研究につなげる創意・工夫が求められ、受動的な受講態度は厳禁となる。
評価方法・基準	平常点評価(発表内容・提出レポート・討議への参加状況)＝約 70%、(出席)

	＝約 30％に基づき総合的に評価する。
テキスト	使用しない。
その他	前期・後期最初の授業で、本科目の進め方に関するガイダンスを行うので、必ず出席すること。

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ H9、地理学(環境・歴史地域コース)演習Ⅱ H9
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生以上
担当者	河島 一仁
講義内容・テーマ	基本的に、テーマは自分で立ててください。そのための指導と援助を河島が行います。このゼミがあなたに適しているかどうか、次の二点で判断できると思います。 第一に、河島が何に取り組んでいるかです。主として職人集団・伝統工業に関心を抱いてきました。具体的には、鍛冶、鋳物師が中心です。地理学ですので、地域・景観などの概念も用いますが、人間そのものを扱うことに力点をしています。因みに、最近に書いた原稿は、甲賀の前挽鋸、京都の伝統工業、三河の交通と交易、三河の鍛冶と鋳物師、アイルランドの鍛冶、東北・一関藩領の村落、大学の地理、などに関するものです。 目下、取り組んでいるのは、紀州鍛冶のまとめ、大野鍛冶と越前鎌行商の調査、『農具便利論』の批判、などです。 第二に、ゼミ生が発表した論文を読んでみてください。94 年度に初めて 4 回生演習を担当しました。これまで(05 年 12 月 3 日現在)に、9 本の卒論が学会誌に掲載されています。その内訳についてみると、『人文地理』に2本、『歴史地理学』に2本、『立命館地理学』に5本です。身近な『立命館地理学』を見ると、京都・祇園祭(9号)、東ジャワのゴザ作り(10 号)、私鉄による戦前期住宅開発(13 号)、京都の映画制作業(13 号)、サメ食慣行(17 号)などをテーマとする卒論が載っています。 まとめれば、「ちよっと昔」か「都会ではないところ」のテーマです。
評価方法・基準	ゼミでの発表レベル、議論への参加状況、レポート、その他を総合的に用いて評価します。
テキスト	なし。各自のテーマに合わせて文献を指示します。
その他	

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ I9、地理学(都市・産業地域コース)演習Ⅱ I9
---------	---------------------------------

開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生以上
担当者	生田 真人
講義内容・テーマ	この演習では、経済地理学に関連するさまざまなテーマについて討議する。日本の経済地理学は、日本経済の主導産業としての工業に関する検討を中心として発展してきた。しかし、1990年代以降、その主な研究課題は、社会と経済の構造変化とともに推移し、研究テーマは都市や各種サービス産業のみならず、行政サービスなど多様な課題領域へと拡大してきた。 ここではまず第 1 に、従来の経済地理学に関連する研究成果を参考にしながら、演習参加者が各自の研究テーマを見出すことを目指す。そして第 2 に、そのテーマについてゼミ報告を行い、論議する。さらに第 3 にそうした研究の成果をゼミレポートとして文章化する。 近年の傾向としては、経済地理学においても、日本以外の他の先進国や、あるいはアジアなどの発展途上国に関する研究が拡大してきた。それらの諸国に関する経済地理学的な研究を希望する諸君の参加を期待したい。
評価方法・基準	ゼミへの出席と報告、年度末に課するレポートなどによる。
テキスト	なし。ただし、経済地理学の思考方法を確認するための論文を講読する。これに関する資料は、配布する。
その他	

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ J9、地理学(環境・歴史地域コース)演習Ⅱ J9
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生以上
担当者	河原 典史
講義内容・テーマ	歴史・文化・民俗をめぐる地理学的研究 近代以降の人びとの生活について、さまざまな資料を用いて、実証的に研究します。フィールドワークを重視して、行政文書だけでなく、インフォーマントからの聞き取りや、彼らが所有している古写真・日記などの資料なども積極的に活用します。 前期は、論文の検索や読解のポイント、資料の活用方法などを解説します。毎週、論文を読解し、それをまとめた「論文カード」の提出を求めます。そして、各自が取り組む卒業論文に類似するモデル論文を参考に、テーマを設定していきます。 夏季休暇中に調査を実施し、後期はその成果を発表します。その場合、参加者全員が発表者に対する「コメントカード」を提出します。 これまでのゼミ生が取り上げたテーマには、「近代大阪の女中」「バンクーバーの日系美容業」「女工幹旋業のテリトリー」「路上パフォーマーの場所選択」「時代劇撮影の時間・空間的決定要因」など、地理学らしくない？ユニークなものも

	多くあります。
評価方法・基準	卒業論文の完成に向けての中間発表・レポート、ならびに「論文カード」「コメントカード」などの提出物などから総合的に判断します。
テキスト	適宜、紹介します。
その他	「になりたい自分になるために」、ゼミに積極的に参加することを強く希望します。

科目名・クラス	地理学演習Ⅰ K9、地理学(地域・景観・環境コース)演習Ⅱ K9
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生以上
担当者	磯田 弦
講義内容・テーマ	このゼミは、夜間主の学生のみ受講可能です。 受講希望の方は、担当教員(磯田)に相談の上、受講登録してください。
評価方法・基準	4 回の発表・3 ゼミレポート(必須) 25 + 25 = 50% 出席・議論への参加 50%
テキスト	特になし
その他	メール: isoda@lt.ritsumei.ac.jp 研究室: いこいの広場研究棟2F41 号室ですが、空いている時間はもっぱら清心館2FGIS 測量室付近にいますので、気軽に質問等してください。